

触感に導かれて描くことは、直感的で衝動的

「感触遊び」で 何が育つの？



子どもたちは、
感触を楽しむ遊びが大好きです。
みなさんの園でも、
子どもがさまざまな感触を味わえる
工夫をしているのではないのでしょうか。
そもそも「感触遊び」は
どうして大切なのでしょう？
感触を大事にした造形表現を
行っている保育園の実践から、
一緒に考えてみたいと思います。



保育園ルポ

「感触」がイメージネーションを豊かにする

東京都江東区にある「社会福祉法人みわの会 シンフォニア保育園」では、1歳以上の各クラスでほぼ月2回 美術の時間があります。子どもたちが自分の感覚をよりどころにして、創造的に造形表現するには、「感触」はとても大事だと考えています。美術の時間の子どもの様子を見せてもらい、あわせてその思いをうかがいました。（取材日：2016年10月27日）

墨汁を使って

この日は1歳児クラスの美術の日。午前中は、水で薄めた墨汁と絵筆を用意。また、かたわらには筆致がまったく異なるボールペンも。園で子どもたちがボールペンを手にするのは、初めての経験でした。



大人たちが美術の時間の準備を始めたのがわかり、いち早く席について待っている。



目の前に紙と墨汁が用意されると、パツと表情が輝いた。保育者はただ道具をテーブルに用意するだけで、参加を促す声かけはしない。やるかやらないかは子どもたちに任せる。



まずはツップの中で絵筆と墨の質感を吟味。